

## ● 発掘調査の成果 ●

春から梅雨へと季節が移り、いよいよ発掘調査も本格的に動く季節となりました。市内ではすでに完了した調査もあります。今号では、そのうち古墳時代の竪穴建物跡が見つかった“赤目遺跡”と弥生時代の環濠の可能性がうかがえる溝が見つかった“山田町遺跡”について紹介したいと思います。



発掘調査位置図

あかめ

### (1) 赤目遺跡(第12次)の調査

平成22年5月14日から、勝部二丁目字南十三地先で、約160㎡を対象に実施した調査は、同月28日に完了しました。赤目遺跡は、これまでに古墳時代の集落跡や古墳の周濠、室町時代の集落跡など、多くの遺構が確認されている遺跡です。また、遺跡周辺は扇状地上に位置していることから、遺構検出面は砂礫層で構成されることが多いことがわかっています。今回の調査では、地表下約50cmの地層で黒褐色土の遺物包含層を確認し、さらにその約20cm下層の褐色砂礫層において、古墳時代後期と、平安時代(10世紀後半代)の遺構・遺物が確認できました。古墳時代の遺構では竪穴建物を1棟検出しています。この建物跡は、長軸約5m×短軸約3mの長方形を呈しており、東辺やや北よりにはカマドが



←竪穴建物1

↓カマド検出状況

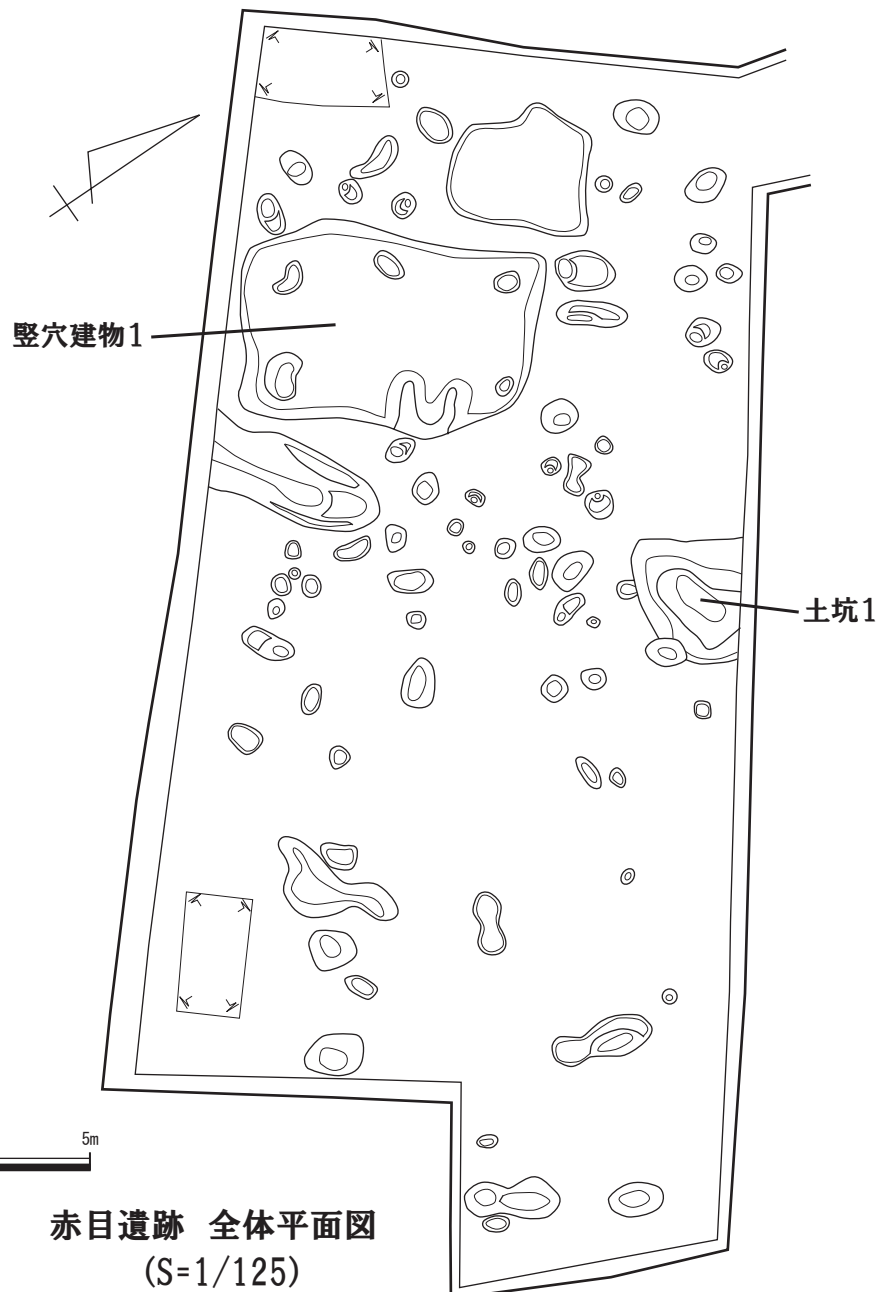


見つかりました。カマドは黄灰色系の土を積み重ねて構築されており、内部には顕著な被熱痕を確認できました。また、建物の埋土からは多数の遺物が出土しており、土師器甕や、須恵器 坏・高坏などが見つかっています。同時期の竪穴建物は、約 300 m 程北の吉身北遺跡などで多数発見されており、当時の集落域が今回の調査地にまで及んでいたことがわかります。

平安時代の主な遺構では、土坑を 1 基検出しています。平面形は方形を呈し、深さ約 60cm で、二段掘りになっていました。土坑内からは、緑釉陶器や黒色土器が出土しています。同時期の



土坑1





遺構は、平成 20 年度に実施した近接する〈吉身北遺跡・赤目遺跡〉の調査地点で多数の土坑やピットを確認しています。つまり、周辺には平安時代の集落も展開していたことを示唆しています。

以上のように、ここ赤目遺跡は古墳時代から平安時代、さらには室町時代と多くの時代を通じて集落域としてあったことが確認できました。ただし、古墳時代の遺構に関しては、遺跡内の北東側、守山駅に近い地点に比べると、今回の調査地である南方はその密度が非常に薄くなっていることがわかりました。つまり、当時の集落の中心は北東に所在する吉身北遺跡にあったと考えるのが自然でしょう。(木下)



赤目遺跡 全景（西から）

#### やまだ まち (2) 山田町遺跡（第4次）の調査

平成 22 年 5 月 10 日から、勝部三丁目字下中水地先において、民間認定こども園新築工事に伴って約 670 m<sup>2</sup>を対象に実施した調査は、6 月 16 日に終了しました。山田町遺跡は、これまでに弥生時代中期末葉の溝、竪穴住居跡、井戸跡などが確認されています。

今回の調査では、調査区西半分を A 区、東半分を B 区として調査しました。地表下約 120cm の灰黄色土層で、弥生時代中期の溝や土坑などの遺構を確認しました。



溝 SD-01 土器出土状況

弥生時代中期の溝は 5 条確認できました。溝 SD-01 は溝 SD-04 に先行する溝で、深さ約 1.2 m を測ります。SD-04 は深さ約 0.8 m、SD-01 と SD-04 を合わせた幅は約 3.9 m を測ります。SD-01 の最下層からは弥生時代中期後葉の甕や壺、上層から中層では弥生時代中期



後葉～中期末葉の甕などが出土しました。溝 SD-02 は幅約 2.4 m、深さ約 1.1 m、溝 SD-03 は幅約 1.9 m、深さ約 1.1 m を測ります。いずれも弥生時代中期後葉の土器が出土しています。この溝 2 条は、断面形態がほぼ V 字状を呈していて、SD-01 に比べて土器の出土量が少ないという特徴があります。平面形態では SD-01 や SD-02 は緩やかな弧状を描きますが、SD-03 は蛇行している箇所が見られます。SD-01・02・03 は、弥生時代中期後葉に同時に存在し、中期末葉の段階には埋没したものと考えられ、埋没して間もなく SD-04 が掘削されたものと考えられます。SD-03 の東側では、溝 SD-15 が確認できました。弥生時代中期後葉の土器が出土していますが、大半が検出のみであるため、詳細は不明です。

このほか、土坑や竪穴住居などを確認しています。SD-01・04 と SD-02 の間では、炭化物を多く含む土坑 SK-05 を確認しました。長さ約 1.6 m、幅約 0.7 m、深さ約 0.3 m を測り、弥生時代中期後葉の土器が出土しました。深さ約 0.2 m の辺りでは、炭化物が一面に広がる層が確認でき、その上層では、被熱したような層を確認しました。また、両層からは骨とみられる破片が見つっています。これらのことから、土坑 SK-05 は屋外炉の可能性が考えられます。竪穴住居 SH-10 は、溝 SD-03 に大半が壊されている状態で検出しました。直径約 4.8 m を測る円形のもので、SD-03 に先行していることから、弥生時代中期後葉以前のものと考えられます。

以上のように、今回の調査では、弥生時代中期後葉の溝をはじめ、ほぼ同時期の屋外炉と考えられる土坑、竪穴住居などを確認できました。特に、溝 SD-01・02・03 は第 1 次調査で確認されている溝の延長である可能性も考えられます。第 2 次調査でも大溝が確認さ



土坑 SK-05



竪穴住居 SH-10



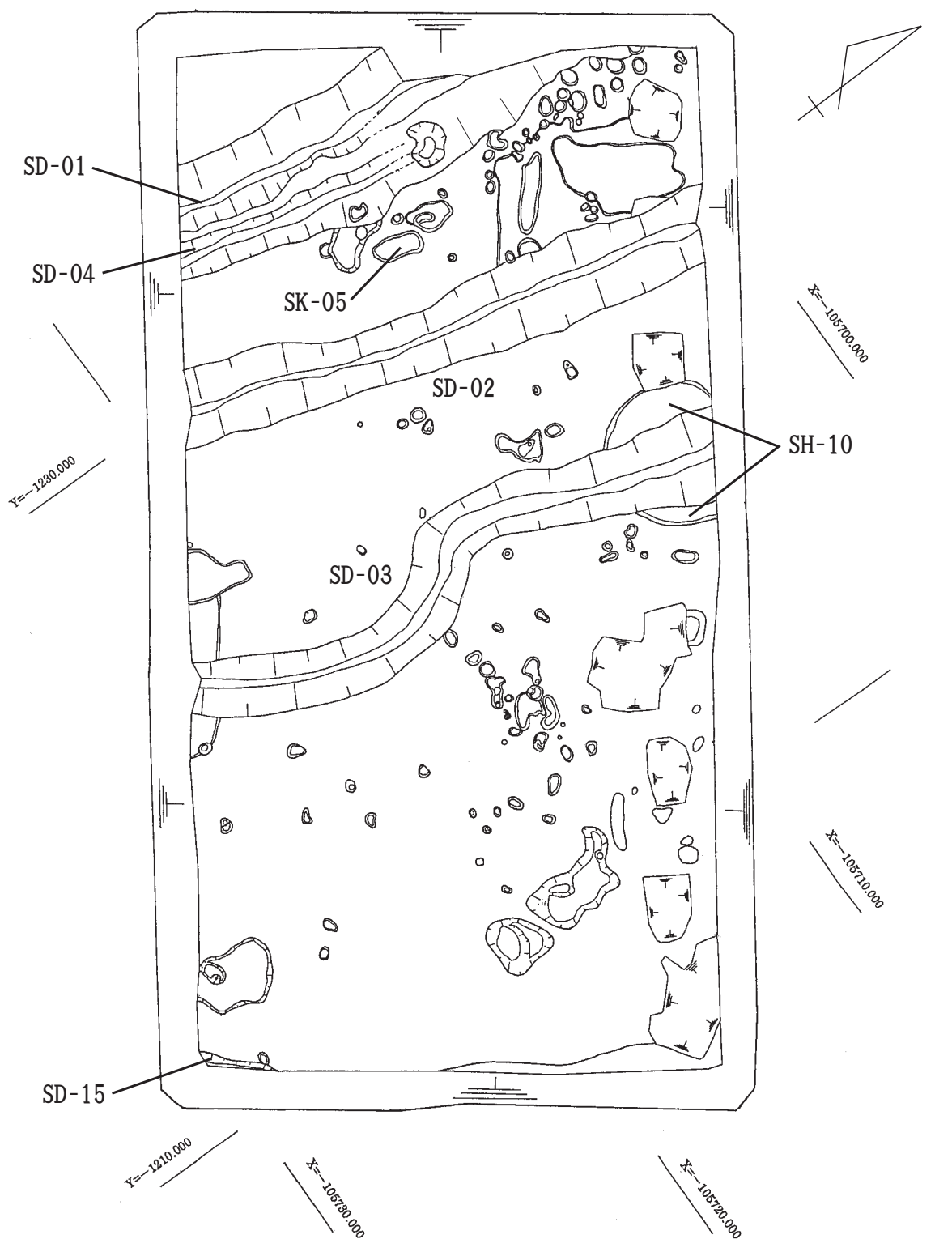
A 区 全景 (南から)



B 区 全景 (南から)

れています。今回の調査成果を含めると、弥生時代中期後葉～末葉の大溝が5条確認されたことになり、山田町遺跡の様子が少しずつ明らかになってきています。今回の調査で確認できた溝は、断面形がほぼV字状を呈しており、環濠の一部である可能性も考えられます。今後の調査を積み重ねることによって、周辺の様相が明らかになるものと思われます。

(平井)



山田町遺跡 全体平面図 (S=1/200)

## ● 歴史入門講座 がはじまりました !! ●

平成 22 年度の“歴史入門講座”が、6 月 19 日を皮切りにスタートしました。初回は、安土城考古博物館の大橋信弥氏をお招きし、「もりやま発掘の幕あけ＝服部遺跡の調査を振り返る＝」をテーマに、野洲川改修工事の際に発見された“服部遺跡”の調査成果について、実際に調査を担当されたご経験から、貴重なお話をしていただきました。また講座当日には、当センターの石田所長から、これまで野洲川に関わる多くの事業を手掛けた経歴から、現代における野洲川のあらましについて語っていただきました。野洲川をめぐって事業経緯と文化財の話には、聴衆も非常に興味深く耳を傾けてくださいました。

今後も当講座は以下の日程で開催いたします。今年の 11 月には、“下之郷遺跡”の史跡公園がオープンします。今年度の講座では、その下之郷遺跡をはじめとして、守山の遺跡を中心に専門の先生方が解説してくださいます。ぜひこの機会に、日常を離れたロマンの世界に浸ってみてはいかがでしょうか。



【全体テーマ】 「遺跡調査のとびらを開くー守山人の足跡探しー」

【講座日程】

第 2 回 7 月 17 日（土）「縄文から弥生にかけての琵琶湖沿岸地域＝土器・墓・集落＝」

第 3 回 8 月 21 日（土）「弥生から古墳時代のムラの変貌」

第 4 回 9 月 18 日（土）「遺跡を撮る＝文化財撮影の半世紀＝」

第 5 回 10 月 16 日（土）「琵琶湖周辺地域と下之郷遺跡の植生変遷史」

第 6 回 12 月 18 日（土）「考古学は未来を照らす～弥生人からのメッセージ～」

【開催場所】 市立埋蔵文化財センター 2 階会議室（第 2 ～ 6 回）

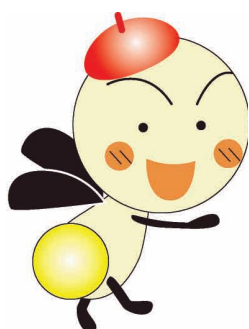
【開催時間】 午前 9 時 30 分から正午まで

【受講料】 1 講座 200 円。

（事前申込みは、現在行っておりません。講座当日に受付いたします。

ただし、満席（定員 60 名）になった場合は、事前申込みの方を優先しますので、ご理解のほどお願いします。）

【問い合わせ】 守山市立埋蔵文化財センター 電話 077-585-4397



前号でお知らせしたとおり、今号から機関紙の電子化を実施しています。そこで、そのメリットを活かして、画像を多数掲載し、遺跡を全く見ていない皆様方にも体感していただけるように仕上げてみました。今後も様々な工夫を凝らして皆様にお届けしていきます。

【 守山市のホームページ (<http://www.city.moriyama.lg.jp>) →

→ 各課の窓口 → 埋蔵文化財センター 】